



燕三条 工場の祭典 2022

Beyond KOUBA ! 祭典から聖地に脱皮する3日間

10月7日(金) - 10月9日(日) 新潟県三条市・燕市全域 及び 周辺地域にて



© 「燕三条 工場の祭典」実行委員会

「燕三条 工場の祭典」実行委員会は、2022年10月7日(金) - 10月9日(日) の3日間、新潟県三条市・燕市全域 及び 周辺地域にて、金属加工、鍛冶木工、印刷、農業をはじめとするものづくりの現場を見学・体験できるイベント「燕三条 工場の祭典 2022」を開催します。

本イベントは、普段閉ざされているものづくりの現場＝KOUBAを一斉に開放し、見学・体験できる機会を設けるものです。

今年は“Beyond KOUBA ! 祭典から聖地に脱皮する3日間”をテーマに、85の拠点* (8月1日時点) を開放します。

2013年にスタートした「燕三条 工場の祭典」は、今年開催10年目を迎えます。

今年は2019年以来、3年ぶりに参加KOUBA各所でお客さまがものづくりの現場を見学・体験するスタイルでの開催です。

コロナ禍においても「燕三条 工場の祭典」は形を変えて活動を続けました。

2020年はオンライン開催で工場からものづくりの現場を発信。

2021年は、かつて研磨機を製造していた工場跡(旧 野水機械製作所 工場)を舞台に展覧会「Tsubame-Sanjo Factory Museum」を開催し、燕三条で生まれた職人の技術による高品質な製品、燕三条の歴史文化、「燕三条 工場の祭典」の歩みを紹介しました。

2022年秋、10年目を迎え大きな脱皮を遂げる各KOUBAが、みなさまのお越しをお待ちしています。

85拠点の内訳

製品などをつくる「工場 (KOUBA)」65拠点、農業などを営む「耕場 (KOUBA)」7拠点、KOUBAでつくられたアイテムを販売する「購場 (KOUBA)」13拠点

開催概要

| | |
|-----------|---|
| タイトル | 「燕三条 工場の祭典 2022」 |
| 会 期 | 2022年10月7日(金) - 10月9日(日) 9:00-17:00 (*12:00-13:00を除く) |
| 会 場 | 新潟県三条市・燕市全域 及び 周辺地域 |
| 参加KOUBA | 85拠点 (予定) |
| アクセス | 交通 上越新幹線・JR弥彦線「燕三条駅」下車 各KOUBAへの訪問は、電車、タクシー、レンタカーなどをご利用ください。 |
| 主 催 | 「燕三条 工場の祭典」実行委員会 |
| Website | http://kouba-fes.jp |
| Facebook | https://www.facebook.com/koubafes |
| Instagram | https://www.instagram.com/koubafes/ |
| Twitter | https://twitter.com/koubafes |

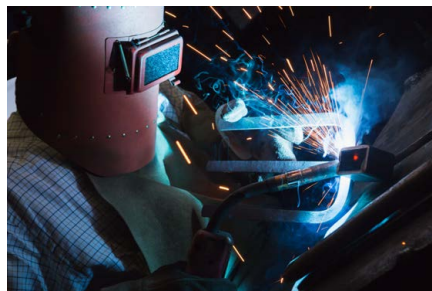
「燕三条 工場の祭典」とは

2013年より金属加工の産地である新潟県燕三条地域とその周辺地域の工場が一斉にKOUBAを開放し、ものづくりの現場を見学体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」が始まりました。毎年10月の数日間、“開け、工場！”をキャッチフレーズに、ものづくりを行う「工場」、農業を営む「耕場」、それらの物品を購入できる「購場」という3つのKOUBAがお客様をお迎えしてきました。2019年には、100を超えるKOUBAが参加するイベントへ成長し、パンデミックにおいて、2020年はオンライン開催でものづくりを発信。2021年は、かつて研磨機を製造していた工場跡(旧 野水機械製作所 工場)を舞台に展覧会「Tsubame-Sanjo Factory Museum」を開催し、燕三条で生まれた職人の技術による高品質な製品、燕三条の歴史文化、「燕三条 工場の祭典」の歩みを紹介しました。また、実行委員会では「燕三条 工場の祭典」の開催期間外でも“365日、ものづくりの現場に触れ、見学できる地域になる”という目標を掲げ活動してきました。現在では年間を通じ20を超える企業の工場見学が可能となりました。同時に国内外でも燕三条エリアのものづくりを伝える展覧会などを継続的に行っています。

「燕三条 工場の祭典」イメージ



燕三条の風景 (信濃川)



工場の風景



工場の見学風景

「燕三条 工場の祭典」海外および国内での展覧会



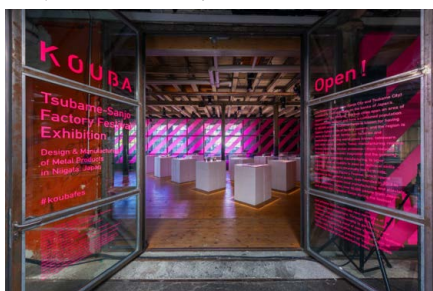
* Tsubame-Sanjo Factory Festival " SHARING DESIGN by Milano Makers" (2014年 ミラノサローネにて) Photo Takumi Ota



燕三条 工場の祭典 - 産地のプロセス (2015年 東京 AXIS GALLERYにて)



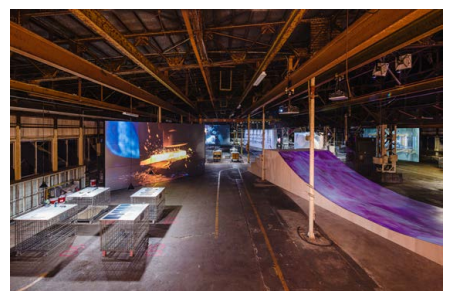
BIOLOGY OF METAL: METAL CRAFTSMANSHIP IN TSUBAME-SANJO (2018年 イギリス ロンドン ジャパン・ハウス ロンドンにて)



Designers' Saturday 2018 (2018年 スイス ランゲンタールにて)



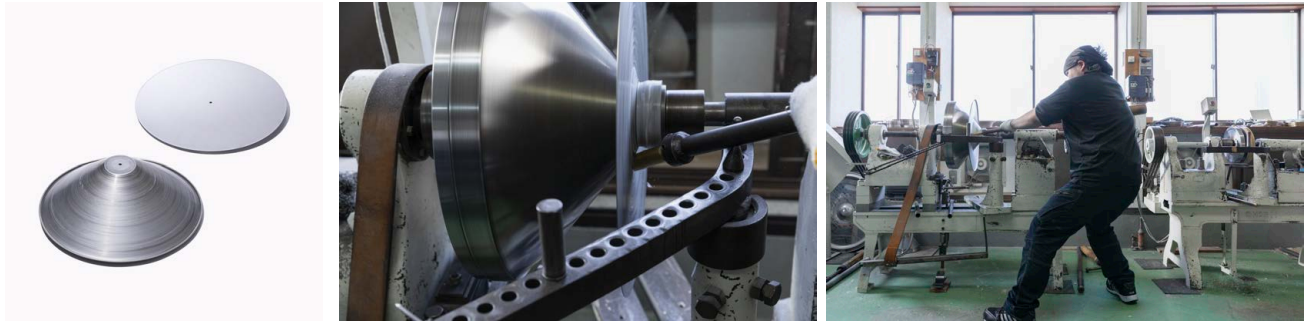
ROOTS OF METALCRAFT: Tsubame-Sanjo, Niigata, Japan (2020年 シンガポール Nanyang Academy of Fine Arts にて)



Tsubame-Sanjo Factory Museum (2021年 新潟 燕三条にて)

参考情報 1P目の写真：ミノル製作所 ～若手職人集団が魅せるへら絞りの技～

2016年創業。金属板の塑性加工技法「へら絞り」を中心に、試作づくりから中ロットの生産まで対応できるスピニングマシンによる加工を請け負う金属加工工場。20代から40代前半までの若い職人が集い、一流の職人を育成するよう、社内でへら絞り技術者の育成制度を導入しています。



© 「燕三条 工場の祭典」実行委員会

燕三条地域について

暮らしを支える職人の街：日本の国土さながら、南北に長い新潟県のほぼ中央に位置する燕三条。燕市と三条市の二市からなるこの地域に横たわる、日本で最も長い川である信濃川。万葉の時代から人々に愛された信濃川は肥沃な土地を育て、古くから農耕を支えてきました。この農業を起点に燕三条では工業や商業が発展し、世界有数の「ものづくりのまち」として知られるようになります。

農業から工業へ：江戸時代の和釘づくりが燕三条の転機となります。この地域を流れる信濃川は、燕三条付近で急に緩やかになるため、この地に暮らす農民は頻発する洪水の度に苦悩を強いられました。そこで農作業の副業として和釘製造が推奨され、それが根付いたとされています。やがて越後で新田開発が盛んになると三条では開墾用農機具の製造へと発展。さらに大工道具や包丁などの刃物鍛冶へと転換していきます。一方、江戸時代中期に鋳起銅器の製法が伝えられた燕は、早くから和釘鍛冶は銅器などの加工業へと移行します。明治時代後期には金属洋食器の生産が始まり、現在につながる金属加工の一大生産地へと発展をみせました。工業化が進んだいまも、両市には鍛冶や鋳起を始めとする伝統的な技法を受け継ぐ職人が多く活躍します。

日本各地に届けられた燕三条製品：明治初期、海運が栄えた新潟県は日本一の人口を誇るほどの繁栄を見せました。越後平野の中心で河川が合流する三条は物資の集散地として発展し、金物商人が日本全国に燕三条製品を届けるようになります。こうして燕三条の優れた金属製品が日本中へと知れ渡るようになりました。燕三条はいまも、人口比率に対して日本でもっとも社長が多い街といわれます。それは家族経営や数人程度の社員による小規模な企業が、刃物や金属洋食器などの金属製品を中心に多種多様な製品を作り出すからに他なりません。古くから日本の暮らしを支えてきた燕三条の「ものづくり」は、農工商の綿密なつながりにより支えられています。

運営チーム

主催・運営：「燕三条 工場の祭典」実行委員会
 イベント全体監修：method
 アートディレクション・デザイン：SPREAD
 編集：山田泰巨
 撮影：神宮巨樹、古平和弘
 プロジェクション：岸本智也
 事務統括：side
 プレス：HOW INC

読者お問い合わせ先

「燕三条 工場の祭典」実行委員会
 公益財団法人燕三条地場産業振興センター
 燕三条ブランド推進部 企画推進課 内
 新潟県三条市須頃1-17
 TEL. 0256-35-7811

掲載・取材に関するお問い合わせ先

HOW INC. (燕三条 工場の祭典 PR事務局)
 TEL. 03-5414-6405 / FAX. 03-5414-6406
 EMAIL. pressrelease@how-pr.co.jp